

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530939

研究課題名(和文) スクールリーダー育成の学修プログラム開発 授業実践アーカイブの活用

研究課題名(英文) Curriculum for expecting school leaders supported by Lesson Record Archives

研究代表者

本間 明信 (HOMMA, Akinobu)

宮城教育大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：70106748

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)： 教師教育の高度化にむけて、「授業実践アーカイブ」を活用した、学修プログラムを開発試行した。同時に「授業実践アーカイブ」の整備、利用環境の改善を行い、公開講座、研究会での利用も試みた。

開発プログラムは、通年の教職大学院の授業科目を学校における実習と組み合わせた。院生の実習プラン作成でアーカイブは有効だった。また、公開講座を経て卒業生が弘済会の論文募集に応募、最優秀賞を受けた。

過去の優れた記録として昭和8年～18年に、35部だけ発行された、群馬県玉村小学校校内研究誌『草原』全10号を発見、現代仮名遣いで復刻、合冊も作成した。「教育実践アーカイブ」の一部は附属図書館やウェブ上でも閲覧できる。

研究成果の概要(英文)： Constructed the "Archives of Teaching", for researches and teacher training. Developed and tested the program for graduate students of Specialist Degree Course of Miyagi University of Education.

The program contains making a lesson record (movie and scripts), and participating in lesson study.

Discovered a school-publication for lesson study named "Sogen", which published 10 issues (each issue was printed only 35 copies) from 1933 through 1943. Reprinted in modern KANA usage. The oldest collection of this Archives.

研究分野：授業研究

キーワード：スクールリーダー 授業実践アーカイブ 教職大学院 授業研究 カリキュラム開発

1. 研究開始当初の背景

専門職大学院として、いわゆる教職大学院が国内に設置され始めてから四年以上経過しているが、それぞれの大学院の学修の態勢とカリキュラムが十分に確立しているとは言いがたい。

特に、専門職としての教職の学修の基礎になる学問、研究分野は優れて実践的なものでなければならない。中でも教師の仕事の中心となる授業の事実に基づく学修、研究が欠かせない。

そのためには、教師(いわゆるストレートマスターも含めて)が不断に同僚や、全国の優れた授業実践に触れていなければならない。さらにどんな研究にも言えることだが、過去の優れた実践に学ぶことがそれ以上に重要である。

現実には、授業のほとんどは記録されず、また記録されたとしても、教師の異動により失われてきた。もともと教師の個々の努力では保存蓄積が困難であった。そうはいえども、専門職としての教師のための学修に授業の記録の必要性はますます大きい。記録をとること、蓄積にも研究の流行がある。一度失われた記録は、再び見ることができないから、よほどの見透し(哲学)を持っていない限り、貴重な記録は残らない。

しかしその中で、1965年創立以来、全国で唯一継続して授業記録を収集蓄積してきたのが宮城教育大学である。授業の事実に基づく学修・研究のために、現有の資源を有効に使う条件が存在している。それを活用した教師教育の高度化をはかる学修プログラム開発を試みた。

2. 研究の目的

教師教育の高度化にむけて、「授業実践アーカイブ」を活用した、学修プログラムを開発する。とりわけ、教職大学院で研修する現職教員がスクールリーダーとしての力量を形成するプログラムを作る。児童・生徒の可能性を伸ばすために、教職の専門性が発揮される場合は、日々の授業である。授業の質を高める指針として、先人の授業記録を有効に用いる。

宮城教育大学には、教師と協同した授業研究の成果として蓄積された、膨大な授業記録が所蔵されている。全国に先駆け、本学で1970年代から現職教育に力を注いだ財産(現職教育講座の開講、現職教員のための大学院構想、授業分析センター設置などの取り組み)を、社会に還元する。そのため、授業記録を使って力量形成をはかるプログラムを作り、実際の効果を検証する。

3. 研究の方法

教師教育を高度化する「授業実践アーカイブ」の充実と活用による、学修プログラム開発のため、三つの作業を行う。

(1)「授業実践アーカイブ」を教師教育に利

用するために、記録のデジタル化を進める。閲覧のためのリストをつくり、コンピュータ上で検索できることを目標とする。

- ・ビデオテープ映像記録 DVD
- ・カセットテープ音声記録 CD
- ・文字記録、指導案、等文書記録 PDF

その中には、70年代から続いている現職教育講座の成果、科学教育を中心に質の高い学習を生み出している民間教育団体「極地方式研究会」の活動の成果である、テキスト(授業書)、指導案、授業記録、授業検討会録音記録、等、宮城教育大学教育臨床研究センターに蓄積された、質・量ともに全国屈指の授業実践資料が含まれる。

(2)特に教職大学院院生を対象とした授業科目において、授業記録の作成、読み方、授業記録を基にした授業の振り返り、検討、授業研究を行う方法・技術を身に付けられるカリキュラムを開発し、その効果を検証する。

また「授業実践アーカイブ」の資料を使った公開の講座・研究会を開催し、現職教員と教職大学院生の指導力を高める。学力定着の方法を探る。カリキュラムと授業のあり方を検討する。

(3)授業研究会による授業研究成果の蓄積ばかりでなく、過去に埋もれている優れた授業実践の記録、資料を収集する。特に次の4種に注目する。

斎藤喜博を中心に授業研究を展開した、群馬県玉村・芝根・島小学校の記録。教科の枠を超えて科学と芸術を踏まえた教育を作り出した、山梨県巨摩中学校の記録。江口武正たちが地域に根ざす教育のあり方を求めた、新潟県上越地域の学校の記録。土田茂範たちが生活を切り拓く教育を追求した、山形県西村山地域の学校の記録。

以上開発された、カリキュラムおよび教材資料は、学部教育へも応用される。さらに原則として公開できる方向を探る。

4. 研究成果

(1)「教育実践アーカイブ」の整備状況

3年間の結果として、現在までに以下のような「教育実践アーカイブ」が実現できている。

		内 digitalized
授業映像記録	約 1,300 件	600 件
授業音声記録	約 900 件	200 件
授業書・テキスト	約 300 件	300 件
授業案(現職)	約 6,000 件	6,000 件
授業案(実習生)	約 5,000 件	5,000 件
実践報告記録	50 件×39 年	200 件
日教組実践報告	約 30 年分	約 20 年分
弘済会研究論文	約 30 年分	約 10 年分
玉村小『草原』	全 10 号	全 10 号

授業映像記録は、ビデオ記録が可能になった1960年代のものから約50年にわたる。音声記録も同様である。授業書(テキスト)は理科を中心として全教科にわたっている。またその実践報告も約30年にわたって教師の

手書きによるものが保存されているが、それを徐々にデジタル化している。報告の記録には音声記録もあり、授業研究の実際を知る上で（歴史的にも）重要なものになっている。

日教組実践報告は、かつての全国研究集会、全県の実践報告が分科会別に集められている。最近のものはない。

弘済会研究論文は、宮城県教育公務員弘済会が募集してきた（全国でもっとも早い。昭和40年代からほぼ50年にわたる。）県内教師の実践報告である。現在ハードディスクに入れて、弘済会でも閲覧できるようになっている。今後弘済会とも連携をはかり、リアルタイムで蓄積を続けることになっている。

群馬県玉村小学校の校内研究誌『草原』は、昭和10年から18年までに10号まで発行された。その全10号を発見、現代仮名遣い復刻、印刷刊行した。さらにpdfおよびワードファイルとして利用できるようにしてある。現在ある授業記録のなかで、もっとも時代をさかのぼるものである。

（2）学修プログラムの開発と試行

教職大学院院生を対象に授業記録の読み取り、作成、授業記録を活用した、授業の事実に基づく授業研究のプログラム（通年）を開発した。

前期は基本的な授業の見方、組み立て方を学びながら、過去の優れた授業記録を分担して分析する。その後、授業科目「学校における実習」での自分の授業をビデオに撮り、文字の記録にまで作り上げる作業を行う。後期は、現職教員と学部卒業生（ストレートマスター）とに分け、現職教員には授業の原則、子どもの考えと教師の考え方、教材の構造の組み換え、子どもたちの内面変化などを講義と作業で進める。学部卒業生は自身の授業文字記録から教材の再解釈、発問の意味、教師と子どもの関係、等を考えさせた。

その過程で、「教育実践アーカイブ」はさまざまに活用できることがわかった。たとえば、高校での実習で「キューバ危機」を取り扱う際に、BBC製作のドキュメントのビデオ（1970年代）が授業プランに有効に利用された。合唱でのイメージ訓練的な指導など、流行とは別に過去に試みられているさまざまな教育の技術も抽出し、提示することができた。またこの授業や、実習において行われる現職教員現任校の授業は、「教育実践アーカイブ」にリアルタイムで追加されている。

現職教員対象の公開講座、研究会でも「教育実践アーカイブ」が利用できる。そこには、かつて宮城教育大学教職大学院に学んだ卒業生も加わり、授業の報告も行われている。そのなかには、「考えることが楽しいと感じる数学の授業作り」というテーマで卒業後も研究を続け、現職教育講座の中で検討を受けた実践報告を、宮城県教育公務員弘済会に応募し、最優秀論文として表彰されたものもある。そのほかにも、卒業生の応募者はたくさ

んいる。

弘済会論文には、現在、宮城県、仙台市の指導的立場にある人々がかつて応募したものが残されている。これからスクールリーダーとしてキャリアを重ねていく教員もこのように公開される論文（授業実践記録）を積極的に発表していく必要がある。

（3）過去の優れた教育実践の発掘

調査はほぼ計画されたように進んだ。とくに成果がはっきり出ている部分を記す。

斎藤喜博が最初に勤めた学校、群馬県玉村小学校で、昭和8年から18年まで発行された、校内研究誌『草原』が10号分全冊そろった。そろってみてわかったことがある。

『草原』はすでに7号分が発見され、現代仮名遣いになおして、復刻印刷されていた。残りの3号が発見されないままだったが、（10年たって）ついに発見された。驚いたことに全部で35部しか印刷されていなかったのだ。それしか存在しなかったものがそろったことは、日本教育史上の奇跡だろう。

3号をまとめて、復刻印刷した。さらに、全10号を合冊にして、これも印刷刊行した。その上で、デジタル情報としてPDFないしワード文書としても閲覧できるようにした。

以上の研究成果と、「教育実践アーカイブ」の一部は、宮城教育大学附属図書館二階、「授業実践資料室」で閲覧できるようになっている。さらに、現在、一部をクラウドに載せる作業が進んでいる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

本間 明信、島小学校の授業記録：「典型」ということ、宮城教育大学紀要、査読無、第49巻、2015、281-289

本間 明信、互除法について（位置づけと素提案）、教育における臨床の学（宮城教育大学教育臨床センター紀要）査読無、第6号、2015、1-8

吉村 敏之、玉村小学校『草原』に描かれた子ども - 教師の記録した事実 -、宮城教育大学紀要、査読無、第49巻、2015、291-304

本間 明信、『草原』全10号の発見と復刻、宮城教育大学紀要、査読無、第48巻、2013、271-279

吉村 敏之、雑誌『教育論叢』における子ども研究 - 教師による学級集団の観察と記録、宮城教育大学紀要、査読無、第48巻、2013、281-293

本間 明信、体系と教育（2） - 教えるための体系 -、宮城教育大学紀要、査読無、第47巻、2012、337-343

〔学会発表〕(計 5件)

本間 明信、吉村 敏之、昭和初期の授業研究、日本教育学会、2013年08月28日、一橋大学(東京都国立市)

本間 明信、『草原』全10号の発見と復刻 - 昭和初期の授業研究 -、日本教育学会、2013年08月29日、一橋大学(東京都国立市)

吉村 敏之、群馬県玉村小学校『草原』における教室の記録、日本教育学会、2013年08月29日、一橋大学(東京都国立市)

吉村 敏之、子どもが見える教師になる道、東北個性化教育学会学習会、2013年09月07日、宮城教育大学(宮城県仙台市)

本間 明信、授業研究(日本の伝統) - 斎藤喜博と林竹二 -、日本教育学会、2012年08月25日~26日、名古屋大学(愛知県名古屋市)

〔図書〕(計 6件)

吉村 敏之、ぎょうせい、子どもの事実から学び続ける教師 - 船戸咲子さんの仕事(『教師として生きるということ - 子どもを育てる教師・教師を育てる学校』所収) 2014、21

本間 明信、春風社、斎藤喜博 = 学習形態の成立をめぐる(『斎藤喜博研究の現在』所収、2012、20)

吉村 敏之、春風社、斎藤喜博と雑誌『教育論叢』(『斎藤喜博研究の現在』所収、2012、31)

本間 明信、春風社、教材開発の原則 - 「円周率」の学習プラン - (『子どもの心にとどく授業』所収) 2012、30

本間 明信、春風社、授業提案「体積」(『子どもの心にとどく授業』所収) 2012、31

吉村 敏之、春風社、国語の授業で子どもに何を学ばせるのか(『子どもの心にとどく授業』所収) 2012、20

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

本間 明信 (HOMMA, Akinobu)
宮城教育大学・教育学研究科高度教職実践専攻・教授
研究者番号: 70106748

(2) 研究分担者

吉村 敏之 (YOSHIMURA, Toshiyuki)
宮城教育大学・教育学研究科高度教職実

実践専攻・教授

研究者番号: 80261642

(3) 連携研究者

なし()

研究者番号: なし